研究分野	授業科目名	科目責任者
生理系分野	神経病態生理学Ⅱ特論Ⅰ・Ⅲ	八木田 佳樹

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

脳卒中の病態や脳循環代謝の基礎を理解するために，当該分野の未解決課題（以下（１）～（５））について取り組む。
（１）脳血管内皮機能障害の分子機序
（２）脳虚血再灌流障害の有効な治療法
（３）rt-PA の副作用軽減法の開発
（４）脳卒中急性期の最適な血圧管理
（５）原因不明脳梗塞のマネージメント

授業到達目標

（１）文献検索などで，目的に沿った情報収集ができる。
（２）論文内容をわかりやすく発表あるいは紹介して討論できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	火	12:00-13:00	八木田 佳樹	講義	[抄読会]	抄読会で課題に関する論文を紹介し，討論する。 [場所:本館棟７階脳卒中医学実験室]

評価方法

【特論Ⅰ】
（１） １年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（２） １年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（１） １年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（２） １年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

発表時に，指導・助言を行う。

教科書

ISBN-9784525248512, 脳卒中病態学のススメ, 下畑　享良（編集）, 南山堂, 2018

参考書

ISBN-9784787826169, 必携脳卒中ハンドブック（改訂第４版）, 高嶋　修太郎, 伊藤　義彰（編集）, 診断と治療社, 2024

準備学習（予習・復習等）

（１）関連分野の文献を読み，内容を簡潔に発表できるようにまとめておく。
（２）発表後の質問について，回答とその根拠を復習し，まとめる。
必要時間：2 時間程度

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卓越した研究成果をあげ，脳卒中学の深い学識を獲得する。

注意事項・メッセージ

毎回発表を担当するか，最低 1 回質問・コメントを行うこと。